

SEAラウンドトーク

ソーシャリー・エンゲイジド・アート
ラウンドトーク

アーティストは今、ソーシャリー・エンゲイジド・アートをいかに捉えているのか？
一線で活躍するアーティストによるトーク&ディスカッション・シリーズ

Vol.2

ポスト・スノーデン時代の映像表現

2017年10月27日[金] 18:30-20:30

会場 TKP上野御徒町ビジネスセンター ミーティングルーム9C

千代田区外神田5-3-3 岩田ビルディング (銀座線末広町駅2番出口 徒歩3分/JR御徒町駅南口 徒歩5分)

定員 15名(先着順) | 参加費 500円(コーヒー/資料代込)

2013年6月に元CIA及びNSA職員のエドワード・スノーデンが香港から複数メディアを通じて暴露したNSAをはじめとする世界の大量監視の実態の波及は、国家や政府系組織と市民の間に更なる不信感を与える一方で、社会の中に様々な通信機器を通じた監視されることに抗する為の表現を生み出し変容させてきました。山田はあらゆる国や地域で国家の侵略や統治にまつわる歴史的遺構を市民と共に占拠し、そこに設置された監視カメラの模倣的なハッキングや実質的なプレイス・ハッキングを通して、権力構造に向けられた表現の開発拠点を作り出す活動を継続しています。今回は別府、ロンドン、上海、三沢での活動を紹介しながら皆さんとの議論の中で現代の生き方としての映像表現について考えます。



Kenji Yamada

山田 健二

美術家

東京藝術大学 専門研究員

1983年東京生まれ。2008年に東京藝術大学 先端芸術表現科を卒業後、国内外の様々な滞在制作プログラムに参加しながら戦闘解除された土地、侵略/越境に関わる民俗的/歴史的遺構を市民と共に占拠する活動や、あらゆる視点から誤用する活動を通して時間や権力に対するより逆説的な表現の開発拠点を作り上げている。ロンドン芸術大学セントラル・セント・マーチンズ校 卓越講師、東京藝術大学 卓越助教を歴任し現在東京藝術大学 専門研究員。美術家として越後妻有アートトリエンナーレ(2009)や上海プロジェクト(2016)への国際展や美術館を拠点とした滞在制作のプログラムへの参加を通して、その社会に偏在する歴史と現代の間に起こる齟齬への表現としてのオルタナティブの実践や、他地域へ分配してゆく活動を行っている。

主催



NPO法人アート&ソサイエティ研究センター
110-0005 東京都台東区上野 3-13-9 原田ビル 201

お申込み&お問合せ

メール | info@art-society.com

件名を「10/27 SEA ラウンドトーク」とし、お名前、ご所属、同伴者の人数をご記載のうえお申し込みください。

※ いただいた個人情報は、適切に責任を持って管理いたします。
※ 会場へのアクセスはウェブサイトよりご確認ください。